

本物の品質を選び抜く目をお持ちいただくために



MAISON TAKUYA

メゾン タクヤの主義と理念

本革製品は均一に生まれてくるものではなく、素材や作りによってさまざまな差が生じる製品です。

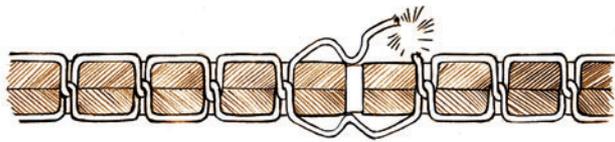
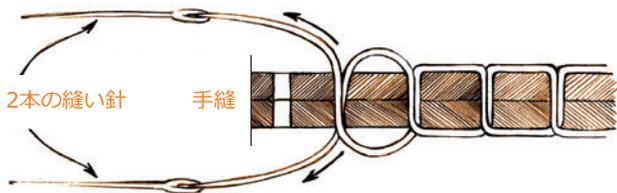
メゾン タクヤは、最上質の皮革素材の探求に余念がなく、かつ、可能な限り最高の仕上がりを目指した本革製品を作るために、必要な時間を惜しまずに製作に没頭しています。

私はメゾン タクヤのお客様には、毎シーズン違うバックを買い替えねばならないというお気持ちを持っていただきたくありません。一つのモデルの完成に6か月以上を要し、また、一点一点の製品の製作にも2週間以上をかけて、丁寧に作り上げた本革製品だからこそ、お客様には、お気に召していただいた製品を、一生ものとしてご愛用いただき、数々の思い出を積み重ねつつ、長くお楽しみいただきたいと願っています。

厳しい目で吟味してください。それがメゾン タクヤの願いです。上質を知る目を通じて製品をつぶさに見つめること、それが最上級の製品を見極める唯一の方法であると思うからこそ、皆様に、ここにまとめた我々の本革製品作りへのこだわりと哲学を、是非分かち合っていたいただければと心より願っています。

これまでも、これからも
メゾン タクヤの工房に
ミシンが置かれることはありません

ミシン縫製



ミシン縫いでは、一箇所です糸が切れると前後数箇所のステッチがほつれてしまい、全体に緩みが生じてしまいます。

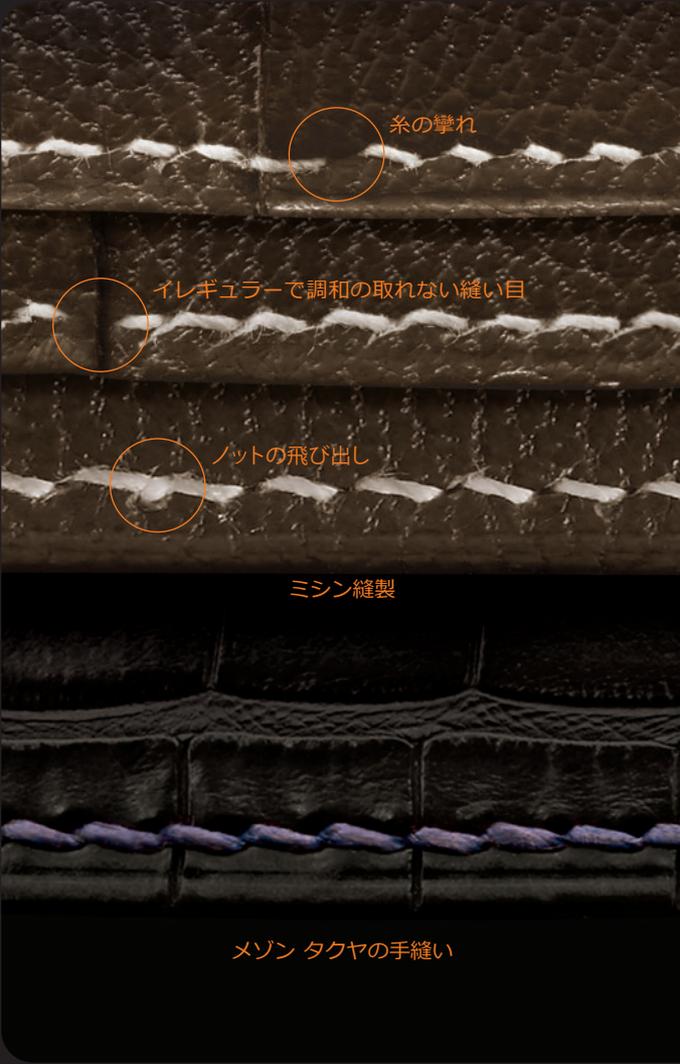


手縫いでは、糸切れがおこっても、その製品への影響は切れた縫い目の片面にとどまり、他の縫い目が緩む事はありません。

メゾン タクヤには、美しさと商品への信頼という2つのこだわりがあります。この2つのこだわりを追求するには、昔ながらの手縫いが欠かせません。ミシン縫製では中々満足する結果を得ることができないからです。

左の図に示したように、手縫いとミシン縫製の一番の違いは、ミシン縫製では、上糸と下糸という2本の独立した糸を交差させて縫い進めるのに対し、手縫いは2本の針を使って、一本の糸で縫い上げていくという点です。

品質：2本の糸を使用するミシン縫製は、一箇所です糸が切れると、前後の縫い目もほつれてしまいます。一方、手縫いの場合は、一箇所です糸が切れても、他の縫い目には影響はできません。また、手縫いの場合は、縫いの前段階の準備として、針を通す縫い位置に予め錐状の道具で印をつけて、微妙なステッチも誤ることなく、丁寧に万全な縫いを進めていくことができます。



糸の攣れ

イレギュラーで調和の取れない縫い目

ノットの飛び出し

ミシン縫製

メゾン タクヤの手縫い

美しさ：ミシン縫製の場合、糸の張りを常に完璧な状態に保つことは、まず不可能と言っても過言ではありません。糸の張り具合が乱れることで、糸が緩んだり、攣ったりといった問題が生じ、縫い目の間にノットの飛び出しができてしまうことがあります。さらに、ミシン縫製に使用できるのは綿またはナイロン製のミシン糸だけです。高級な皮革製品の製作に欠かせない伝統的なワックス掛けした麻糸は、手縫いにものみ許されるものなのです。

「手縫い」を謳うブランドはたくさんありますし、もちろん本当に手縫い作業が行われているのでしよう。ただ、それがほんの限られた部分でしかないとしても…。しかし、メゾン タクヤの製品は最初から最後まで、完全に手縫いのみで製作されています。工房にミシンを置かないからこそそのこだわりです。

これまででも、そしてこれからも、メゾン タクヤの工房にミシンが置かれることはありません。

厚紙は書籍に使われるものであり
革製品のためのものではありません



PARIS
MADE IN FRANCE

厚紙が芯材に
使われている例

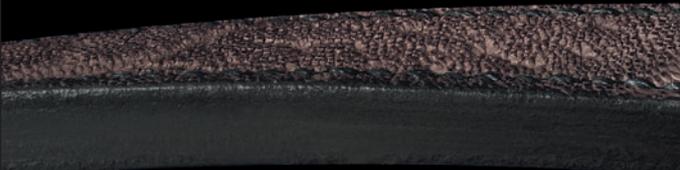
メゾン タクヤ
芯材にも銀面
付きの革を使用

美しい革製品をつくるために必要なことがもう一つあります。それは "革" を使う事へのこだわりです。メゾンタクヤでは、技術的な理由からどうしても必要である場合を除き、革以外の素材は使用しません。最近では、多くの革製品に布芯やプラスチック板、さらには厚紙までもが使用されています。こうした革以外の素材は、革製品の耐久性や品質に大きな影響を与えます。

例えば、持ち手やショルダーストラップに布や繊維の芯地を使うと、ほつれたりしがれやすくなります。また型を整えるために紙の芯材を革の下に入れてしまうと、湿気に弱く、型崩れを引き起こす原因となる場合があります。また、高級製品の裏地にも重さを言い訳に布のライニングが使われることがありますが、実際には上質なラムスキンなら重さはほとんど変わりません。

メゾンタクヤでは、革という素材に大きな信頼を寄せています。鞆や財布に使われている素材が革だけならば、すべてのパーツが同じように年月を重ね、美しい風合いを帯びていきます。お客様にはそれぞれの製品がどんな素材からできているか、また、なぜその素材が使われているのかを知る権利があるというのが、メゾンタクヤの考えです。ですから、製品に革以外の素材を用いた場合にはメゾンタクヤでは、それを隠すことなく、きちんと見える形で使用しているのです。

塗料は陶器の絵付けに使うものであり
革のためのものではありません



メゾン タクヤの切り目本磨き



革のへり返しによる処理



コーティング材の使用によるコバ仕上げ

革製品の製作において、最も複雑で、明らかに技術の良し悪しがはっきりと表れるのはコバの仕上げです。工場生産の高級ブランドがずいぶん昔からコバ仕上げに塗装を用いているのは、その大変さをカバーするためではないかと思われます。

事実、ふのりや蜜蝋がしみこむ柔らかさになるまで時間を掛けて何度も繰り返し、革の縁を磨きあげる伝統的なコバ仕上げより、革のエッジに何度も塗料を重ね付けするほうがはるかに容易です。またコバ磨きを施すよりも、薄く漉いた革でエッジを包み込んで始末をする方がずっと簡単なのは言うまでもありません。しかし、そうして仕上げた製品の耐性は、伝統的なコバ仕上げには全く及びません。

古くから伝わる伝統的なコバ仕上げは、皮革製品の製作で最も時間のかかる工程です。しかし、その手間を惜しんでいては、耐久性に富んだ丈夫な製品を作ることはできません。せっかくのワニ革の財布がコバ仕上げが十分でなかったがために、エッジに剥がれが生じたり、脆化してしまうのはあまりにも残念です。

保護動物、即ち、絶滅危惧種
というわけではありません

1. หนังสือ : PERMIT AC.0510.2/ 14815 ชนิด : <input checked="" type="checkbox"/> IMPORT <input type="checkbox"/> EXPORT <input type="checkbox"/> TRANSIT		2. อนุญาตให้ใช้ได้ Valid to April 17, 2011		
3. ผู้รับส่ง : Consignee Tanya Co. Ltd.		4. ผู้รับอนุญาต : Permittee TCIM Vivian		
5. เงื่อนไขพิเศษ : Special conditions Re-Export from France FR1007200675-R 04/10/2010		6. หน่วยงานที่ออกใบอนุญาต : Management Authority Department of Fisheries, Phrayothin Rd., Chatuchak, Bangkok 10900 Thailand Fax: 66-2562-0530, Email: ctesoot@yahoo.com		
7. ชื่อสามัญ : Common name	8. ชื่อวิทยาศาสตร์ : Scientific name	9. รายละเอียด : Description	10. แหล่งที่มา : Appendix/Source	11. จำนวน : Quantity
A. Nile Crocodile	Crocodylus niloticus	Tanned Skin (FR RE EXP 0234699-0234624)	IUC	18 Pcs.
B.	-Nothing is followed-		ประเทศต้นกำเนิด : Country of origin ใบอนุญาต : Permit No./Dated	
C.			ประเทศต้นกำเนิด : Country of origin ใบอนุญาต : Permit No./Dated	
D.			ประเทศต้นกำเนิด : Country of origin ใบอนุญาต : Permit No./Dated	
12. ใบอนุญาตออกให้โดย : THIS PERMIT IS ISSUED BY Bangkok Thailand October 16, 2010 (Official stamp and signature)				
13. อนุญาตให้ส่งออกโดย : EXPORT ENDORSEMENT (Official stamp and signature)				
14. ท่าเรือส่งออก : Port of Exportation Suvarnabhumi Airport		15. วันที่ออก : Date 17 OCT 2010		
16. สถานที่ : See block 7 A. 1011 B. C. D.		17. จำนวน : Quantity 11		
18. หน่วยงาน : (Miss. Punnamat Siripat) Fisheries Biologist		19. ตราประทับและลายเซ็น : Official stamp and file		

私たちのもとには、野生動物や絶滅危惧種に関心の高い方から、メゾン タクヤが用いているワニ革やオーストリッチなどの高級皮革素材についての質問が寄せられることがあります。

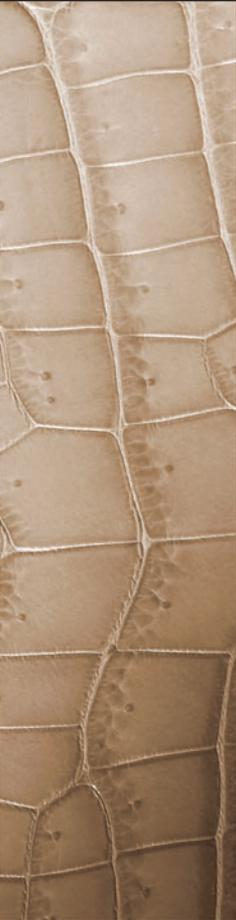
まず、お話ししておきたいのは、絶滅危惧種に懸念を抱いているのは私たちも同じだということです。メゾン タクヤでは、絶滅の危機のある野生動物の素材は決して使いません。

私たちの工房で使う革はどれもCITESの認可を受けています。CITESとは、絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約の略で、保護動物の革の使用の許可証のことであります。私たちが用いる高級皮革素材は、野生動物のものではあっても、絶滅危惧種動物のものではなく、そうでなければ、CITESの認可を受けることはできないのです。

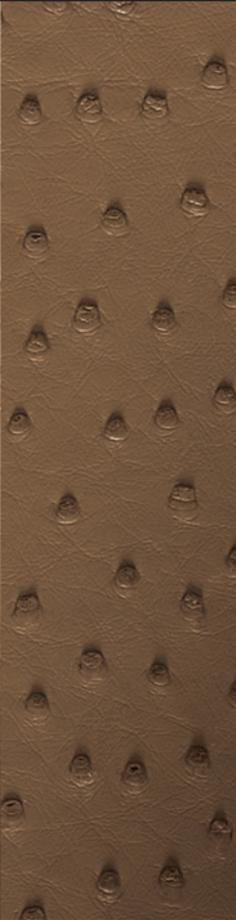
メゾンタクヤでは、養殖のものよりもずっと品質が優れているという理由から、できるだけ野生動物の革を使用し、製品を収めた箱には、可能な限りCITESの認可証のコピーを入れています。また、お客様からのご要望があれば、全ての高級皮革素材のCITESの許可証の写しを、いつでもお届けいたします。メールでのお送りも可能です。



パイソン



ワニ革



オーストリッチ

革の美しさを称え、素材への感謝を示す最善の方法は、それを素晴らしい製品に仕上げることに他なりません。逆に、手間を惜しんだために質の悪い製品になってしまった製品を目にすることほど残念なことはありません。私たちは、生きた素材を扱っている事を十分に認識しており、メゾンタクヤの工場の誰もが、革という素材への深い畏敬の念を噛みしめて、物作りに取り組んでいます。

革のしぼにも差があります



天然のしぼを持つ銀付革



型押し革

プリントによって、表面にしぼや天然の動物が持つ紋様を出した革があまりにも一般的になっているため、最近では、本物の銀付革というものがどんなものであるのかが分かりづらくなっています。

メゾン タクヤでは、いかなる妥協が強いられてもそうしたプリントの型押しのレザーは採用しません。私たちの製品の表面に見られる革のしぼは、その動物固有のしぼであり、金属の型で後から加工をしたものではないのです。

もちろん「本物」の銀付革を獲得するには、単なる型押し革を作るよりもずっと多くの手間のかかる作業が必要です。傷のない革を型押しに頼らずに得ようとすると、牧場での飼育の段階から細心の注意が払われなければなりません。皮膚に傷をつけることのないように、牧場の周囲のフェンスにワイヤーを使わず、また、皮膚に傷や痕を残す害虫にも注意を払って飼育していくのです。

こうして飼育した上で、皮をなめす化学的処理工程に入ります。なめしの工程を経て皮が縮み、毛細血管の模様が浮き上がって、独自のしぼが表れるのです。皮が縮むことで、もとの大きさよりも仕上がりが小さくなってしまいますので、その点でも型押し素材よりもロスが生じることは避けられません。



このように、手間と時間のかかる工程が必要であっても、自然が生み出すしぼの表情は、プリントによる型押しとは全く質の異なる魅力をたたえ、プリントの型押しの革では味わえない独自の美しさそして、弾力性を宿しているのです。

こうして生まれた銀付革の品質の良し悪しを見分けるのは難しいことはありません。革を手で優しくなでてみてください。それが質の良いものであるならば、革の方からも、あなたの手をなで返してくるような感触が感じられることでしょう。そう、革の良し悪しは、その革に対する愛情が自然と教えてくれるものなのです。

アニリン仕上げのフランス産ヤギ革
ホーンバック

流行のスタイルは
不完全を覆い隠すためのものではありません



フランスの詩人ジョン・コクトーに『ファッションを愛するのは、それが儂いからだ。』という言葉がありますが、私たちも流行を取り入れることの重要性についてはもちろん認めており、流行を愛すべきものとして大切にしたいと思っています。

しかし、流行のスタイルやファッションでも、品質の欠点を隠してしまったり、また、どんなにお洒落なアイテムであっても、クオリティに対する目を曇らせる出来栄えにとどまってしまうとは、なかなか納得がいかないものです。

時に私たちはバッグや財布のディテールや美しい金具に惹かれることがあります。しかし、美しく仕上げられたパーツの存在によって、かえってクオリティそのものへの注意がそらされてしまう。そのような製品展開に甘んじることは、メゾンタクヤのポリシーでは明らかに受け入れられないのです。

こうした理由から、メゾンタクヤではメタルパーツの使用が少なく、デザイン上での装飾的な手法をとることには、むしろ控えめな姿勢をとっています。私たちがクラシックすぎるとおっしゃる方がおられることも承知していますが、今はパーツにブランドのロゴを刻むことよりも、本革の本質とその機能へのこだわりをつきつめたいと思っています。



より軽い鞆作りをめざし、また、革には撥水性をもたせ、できるだけしなやかな革小物を作り上げることで、お客様に毎日使っていただける本革製品をお届けしようと、私たちは日々努力を重ねています。時にはそうした基本姿勢に加え、装飾的な金具を採用するなどプラスアルファのデザイン要素を添えたいこともあります。

そうした要素を追加する利点も分かっているのですが、しかし、そうすることで鞆の重さがどうしても増してしまうことも、また事実なのです。時代に即したレザーグッズを創り出すこと、そして、さらに数十年の時を経ても、そのスタイルが新鮮に感じられるような革製品を創作することを私たちはめざし続けます。

そんな数十年の時を経た製品の味わいは、もちろんそれを受け継いだ世代だけが味わうことができる幸福なサプライズ…。その時に、直線と曲線が織り成す独自のラインや、オリジナルのラベンダー色のステッチをご覧頂ければ、メゾンタクヤの製品であることは、きっとお分かりいただけることでしょう。MAISON TAKUYAの刻印も、個々の製品のどこが目立たないところに押されています。

メイド・イン・メゾン タクヤ



以上、私たちの本革と品質へのこだわりをご説明してまいりました。ここまでお読みくださり本当にありがとうございました。

この小冊子に記載してきた通り、メゾン・タクヤは細部の細部にまでこだわりを持った人間が集まった集団です。メゾン・タクヤの製品が自社工房でしか製作されないのは、私たちのこだわりの強さゆえなのです。私たちは、徹頭徹尾、自分自身の手で全製作工程を管理しており、下請けや外注業者に任せることはありません。

展開上、「フランス製」や「イタリア製」を強調する企業がありますが、生産国を強調する一方で、製造工程の厳密な管理ができていなかったり、場合によっては量的により大きな生産に対応するために外注や下請け業者に生産を委託する例も見られます。

メゾン・タクヤは、そうした流れとは異なる道を選びました。それは、優秀な才能ある職人を育てあげ、その職人たちを自社工房に集めて、あらゆる製作の工程を100%完全に管理するという道です。

ブランド名は、その名を示すだけではありません。

「メイド・イン・メゾン・タクヤ」

・・・それは、私たちの本物の革物作りへの誇りと献身を保証するものなのです。

www.maisontakuya.com

